

## 百人一首を覚えよう！ その6 (61~70)

51. かくとだに えやはいぶきの さしも草 さしも知らじな 燃ゆる思ひを  
(かくとだに えやはいぶきの さしもぐさ さしもしらじな もゆるおもひを)

(藤原実方朝臣 (ふじわらのさねかたあそん) ( ~ 998) 「後拾遺集」)

52. 明けぬれば 暮るるものとは 知りながら なほ恨めしき 朝ぼらけかな  
(あけぬれば くるるものとは しりながら なほうらめしき あさぼらけかな)

(藤原道信朝臣 (ふじわらのみちのぶあそん) (972 ~ 994) 「後拾遺集」)

53. 嘆きつつ ひとり寝る夜の 明くる間は いかにかしき ものとかは知る  
(なげきつつ ひとりぬるよの あくるまは いかにかしき ものとかは知る)

(右大将道綱母 (うだいしょうみちつなのはは) (937 頃 ~ 995) 「拾遺集」)

54. 忘れじの 行末までは かたければ 今日を限りの 命ともがな  
(わすれじの ゆくすゑまでは かたければ きょうをかぎりの いのちともがな)

(儀同三司母 (ぎどうさんしのはは) ( ~ 996) 藤原道隆と結婚) 「新古今集」)

55. 滝の音は 絶えて久しく なりぬれど 名こそ流れて なほ聞こえけれ  
(たきのおとは たえてひさしく なりぬれど なこそながれて なほきこえけれ)

(大納言公任 (だいなごんきんとう) (966 ~ 1041) 「拾遺集」)

56. あらざらむ この世のほかの 思ひ出に いまひとたびの 逢ふこともがな  
(あらざらむ このよのほかの おもひでに いまひとたびの あふこともがな)

(和泉式部 (いずみしきぶ) (976 頃 ~ ?) 女流歌人 「後拾遺集」)

57. めぐり逢ひて 見しやそれとも わかぬ間に 雲隠れにし 夜半の月かな  
(めぐりあひて みしやそれとも わかぬまに くもがくれにし よはのつきかな)

(紫式部 (むらさきしきぶ) (970 頃 ~ 1014 頃) 「新古今集」)

58. 有馬山 猪名の笹原 風吹けば いでそよ人を 忘れやはする  
(ありまやま ゐなのささはら かぜふけば いでそよひとを わすれやはする)

(大式三位 (だいにのさんみ) = 紫式部 (No. 57) の娘) 「後拾遺集」)

59. やすらはで 寝なましものを 小夜更けて かたぶくまでの 月を見しかな  
(やすらはで ねなましものを さよふけて かたぶくまでの つきをみしかな)

(赤染衛門 (あかぞめえもん) 女流歌人) 「後拾遺集」)

60. 大江山 いく野の道の 遠ければ まだふみもみず 天の橋立  
(おおえやま いくののみちの とおければ まだふみもみず あまのはしだて)

(小式部内侍 (こしきぶのないし) ( ~ 1025) = 和泉式部 (No. 56) の娘) 「金葉集」)